

高西地区 から こんにちは
今月の 気になる人



興津支所管内より

座右の銘は「有言実行」

おかべ ますむ
岡部 勤さん (65)

興津地区で施設ミョウガ48アール、水稻25アールを作付されている岡部さん。趣味はゴルフと旅行だそうです。最近ではもっぱら旅行がメインのようです。近々息子さんの鉄平さん(32)もご夫婦で興津地区に戻られ、施設ミョウガ栽培に取り組まれる予定。親子揃って地域を一層盛り立てていただけることでしょう。今度は鉄平さんも取材させてくださいね。



栲原支所管内より

野菜づくりは対話と観察力！

おかだ つよし
岡田 毅さん (68)

栲原町上本村の岡田毅さんは、県外での勤めから定年帰農し8年目になります。土佐甘とう13アールの他に、直売用のトウモロコシ20アール、根深ネギ25アールを栽培しています。『ふるさとの水田を守る』を合言葉に昨年設立した『おちめん営農組合組合長』も務めています。朝夕植物を見て、何を求めているかを観察すると、植物が喜んでいたり、不機嫌な時に発するテレバシーをたまに感じて楽しいそうです！！



四万十支所管内より

おいしい梨をどうぞ

かどわき まもる
門脇 守さん (87)

四万十地区で梨40アールを作付されている門脇さん。趣味が「書」という門脇さんは、いくつになっても日々勉強という姿勢で農作業にも取り組まれています。10月中旬からは新高梨の出荷も始まるようです。芳醇な香りのする新高梨は絶品で、機会があれば是非手に取ってくださいとのことでした。楽しみですね！

東津野支所管内より



笑顔で米ナス栽培

かとう いえひろ
(右) 加藤 家廣さん (71)
よしみ
(左) 好美さん (70)

笑顔で取材に応じてくれたのは、津野町芳生野で米ナスを栽培している家廣さんと好美さん夫婦。昨年までハウス生姜を栽培していましたが、6年ぶりに米ナス栽培に復帰しました。訪問するいつも笑顔で受け入れてくれます。「JAの指導員がよく来てくれて状況を見てくれるから安心して栽培できる」と語ってくれました。これからも夫婦で力を合わせて楽しい農業を続けていきたいです。

大野見支所管内より



元気で明るく活動中！

たかはし いとみ
高橋 糸美さん (87)

久万秋の老人クラブの会長を務められている、大野見久万秋にお住いの糸美さん。また、大野見女性部の活動にも、欠かすことのできない一人です。これから秋は、イベントも多く敬老会や新米フェスタ等女性部さんでの活動も忙しくなってきます。「これからは、みんなに迷惑をかけないように、仲間に入れてもらって楽しく過ごしていきたい」と、おっしゃって下さいました。

できごとピックアップ

地区内のイベントや、地域農家の取り組みなどを紹介します！



多様な料理は大好評！

1 四万十地域 人気イベント 「ときめきビアホール」開催！

8月23日、四万十管内各地の女性部が協力し、夏の人気行事「ときめきビアホール」を開きました。地元のコメ、野菜、肉を使ったこだわりの料理で親睦を深めてもらおうと2003年から開催しており、事前に用意したチケット200枚が完売しました。

17回目を迎えた今年は、前日から述べ50人の女性部員が40品100皿以上の料理を準備。地元野菜の肉巻きやミョウガやリュウキュウの田舎寿司などの人気メニューはもちろん、飽きが来ない工夫として毎年新しいレシピを加えています。今年は「ミニトマトのおじゃこマリネ」や「カボチャの肉詰め」「牛筋カレー」が登場しました。「どれもおいしい」「ぜひ自宅でも作ってみたい」など好評をいただきました。

ビールの早飲みなど催しも盛り上がり、今後も地域の交流の場として開催していく予定です。



感謝状を受取る弘田会長

2 津野山地域 園芸連・弘田会長に感謝状 土佐甘とう生産者交流会

8月23日、津野山管農経済センターで「土佐甘とう」の生産者交流会を開き、県内6地域から約50人が参加しました。榊原町川井の高橋亀一郎さんのハウスを視察し、栽培技術を共有しました。今年は定植以降の不安定な気温差が影響し初期成育が緩慢でしたが、現在は好調で病害虫被害も少なく、前年を上回る出荷量を見込んでいます。参加者からは温度センサーで稼働する細霧装置に注目し、甘とう栽培における大きな課題である「尻腐果」に対する効果に期待を寄せました。

その後の意見交換会では、今後の生産・出荷計画について協議し、今後は販売促進活動にも力を増して取り組んでいくことを確認しました。また、8月末で県園芸連を退職する弘田憲一会長へ、生産者一同から感謝の意を込めて感謝状や記念品が贈られました。弘田会長からは「土佐甘とうは単価も安定し他の品目に負けない優良な品目である。農家には自信を持って栽培に取り組んでもらいたい。」と参加者らにエールが贈られました。

3 四万十地域

共に歩んだ50年



記念品を受け取る中平克喜さん幸子さんご夫婦

四万十支所では、毎年金婚式を迎えられた管内のご夫婦のお宅へJA職員が訪問し、お祝いの記念品贈呈を行っています。50年前の1969年（昭和44年）といえば、人類が初めて月面に降り立ち、日本では「黒ネコのタンゴ」が大ヒットを記録していました。様々な歴史と共にご夫婦の歴史も50年の区切りを迎えられ、これからも皆様ますます健康で過ごされることを願っております。

4 津野山地域

東京で土佐甘とうをPR



「めんつゆ炒め」の試食

津野山管農経済センターは8月3日、東京都品川区大井町の澤光青果大井町店で「土佐甘とう」の消費宣伝を行いました。

料理は「めんつゆ炒め」を提供し、シャキッとした食感と辛味の少なさを生かした旬のおいしさをアピール。来店者からは「辛味やえぐみが少なく食べやすい」「色々な料理に合いそう。」と好評でした。今後も消費宣伝活動に力を入れ、販路拡大と知名度アップに取り組み、有利販売に繋がっていきます。

5 四万十地域

令和元年産米の検査開始



真剣に検査を行います

四万十管内では、8月6日から興津地区を皮切りに、令和元年産米の検査が始まりました。農産物検査員の資格を持ったJA職員が水分・形質・異物混入の有無などの検査を行い、一等・二等・三等・規格外の範囲内で等級を付けた後出荷されます。初回に行われたコシヒカリの検査については、全て二等という結果になりました。

検査は8月末から窪川地区の台地部、9月末からは大野見地区で行われます。

6 津野山地域

GAPの取組み本格化



取組み状況を聞き取る営農指導員

津野山管内では生産者GAP（農業生産工程管理）に力を入れていきます。GAPとは食品安全、環境保全等の持続可能性を確保するための取り組み。安心安全な農産物の生産出荷に努めるため、圃場や調整場、農薬や肥料の管理状況などを確認する巡回を実施しました。消費者の為にだけでなく、生産者も安心して栽培に取り組める体制を築いていくためにJAや県農業振興センター、生産者が協力していきます。

津野山地域より

今秋が肝心！ 来年の稲づくりに向けて

生産性の維持向上のために土づくりを必ず実施しましょう

近年の水稲栽培においては冷夏や長雨、記録的な猛暑などに悩まされることが多く、これらの異常気象により稲体の活力が低下し品質や食味の低下に繋がっています。厳しい条件下で生産性を維持するためには、土壌ケイ酸分の確保、腐植率の向上、適正pHの維持に努める必要があります。特に土壌改良資材は稲刈り後の年内のうちに施用することが求められます。

◆ケイ酸の必要性

ケイ酸は水稲の耐病性、倒伏防止の大きな効果があり稔実歩合を高めます。近年、このケイ酸が不足している圃場が多く見受けられます。ケイ酸含有量の少ない土壌ではケイ酸肥料を施用しましょう。

◆腐植の向上

腐植は作土層の物理的な改善と土壌中の微生物活性を高めます。稲わらや堆肥等の有機物を田植え前よりも早い時期（稲刈り後～年末）に施用し土壌に馴染ませることが効果的です。

◆適正pHの維持

水稲栽培において適正とされるpH6（弱酸性）を目標に石灰窒素肥料を施用します。

STOP稲わらの放置！

水田に残った稲わらは放置せず、しっかりすき込みましょう。稲刈り後年内に処理することで次作の堆肥として有効に活用することができます。また稲わらのすき込みと同時に土壌改良資材を施用することで、ワラ及び稲株の分解、腐熟を促進し有機物や微量元素の補給を心がけましょう。

資材名	施用量	施用時期	備考
根友G	20～40 kg	稲刈り後～	稲わらすき込み時に施用
タキアーク・S	30～45 kg	稲刈り後～	豊富な成分を含んだ改良剤
ケイカル	120～200 kg	元肥時	ケイ酸補給の肥料

※稲刈り後、土壌分析による土壌診断を希望される方はJA営農経済センター輝へ土を持参してください。約1か月で診断結果を報告いたします。

連絡先：津野山営農経済センター 営農指導課 TEL (0889) 62-2335

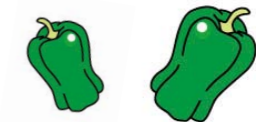


四万十地域より

夏秋ピーマンを 栽培してみませんか？

管内の夏秋ピーマン栽培は約25年前から始まり、生産者・栽培面積ともに年々増加し、単価が高かった昨年は販売金額1.4億円を突破しました。生産技術も向上してきており、部会では更なる所得の向上を目指して取り組んでいます。

是非、夏秋ピーマン栽培を始めてみませんか。



～栽培のながれ～ ▲:定植 ■:収穫期間

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
露地					▲	■						
雨よけ				▲	■							

★主な作業内容★

圃場の準備や栽培管理など様々な作業がありますが、主な作業は収穫と出荷調整作業です。四万十夏秋ピーマンの選別作業は全て農家による「個選（袋詰め・箱詰め）」を行っています。

《10aあたりの生産収支の目安》

	露地栽培		雨よけ栽培	
	収入	費用	収入	費用
出荷数量 (kg)	6,000		9,200	
平均単価 (円/kg)	334		363	
精算金額 (円)	2,004,000		3,339,600	
種苗代 (購入苗)		220,000		
肥料代		160,000		
農薬代・雇人費・資材代等		590,000		
合計		970,000		

※過去3カ年の平均数値を参照しています。

※栽培管理・天候等によって農薬代・肥料代など変わりますのであくまで目安となっております。
※雨よけ栽培は別途施設費等が必要です。

興味のある方は下記までご連絡をお願いします。

JA高知県四万十営農経済センター 永野 TEL (0880) 22-5179

皆さんからのご意見、ご感想、つぶやき、川柳、イラストなど、お便りを心待ちにしています！

みんなのひろば

俳句

霧の里句会

再会は遺影となりし夏の果
野の百合をいただきて弔心あり
武政礼子

みどり児を抱きて泣かる秋暑かな
川堰の大樹すがりて凌霄花
市川和美

庭に佇つわれを取り巻く夏西あかね
土庭つちくれの土塊まろぶ大夕立
今橋孝子

台風と共に帰りぬ孫夫婦
定刻のなかなか鳴きて目覚めけり
田中信子

得意げに掲げて戻りし大鰻
金突しときに仕留めし鰻高く掲げ
玉川治美

マンシヨンの通路蟬駭転びくる
姉の娘と日語らいて大暑の日
竹内春猪

妹と話は尽きず盆の月
夏の朝感謝しつつの句作かな
西宮正衛

老鶯のよく鳴き終る宮掃除
夏服となり軽やかな風となる
西森美好

曇みじわ伸ばす浴衣や亡母ゆづり
早世の友の面差し露時雨
長谷部延子

夏枯梗色の薄きも涼しけれ
里小道昔のままに枇杷熟るる
渡辺小梅

短歌

窪川短歌教室

戦争の悲惨伝える展示会「よくわからない」と小四が言う

しば犬のはなが吠えてる鼻先でハサミ広げ睨む沢蟹

百二歳のひとの過ぎ行き偲ひつつ通夜のおいのり黙もだ有りにきく

とりどりの椿をいけて昼に来る初曾孫待つぽん太とモモと

この里に住みて二十年温かくやさしきひとのまたも逝きたり

油揚げ、豆腐、蒟蒻つくりつつ生きたる人の白骨拾ふ

甘辛き醤油と玉ねぎスライスで鯨の刺身かつて好みし
(商業捕鯨はじまる)

夫のくせ「痒い」「痛い」に「無くなった」失せ物さがすに今朝もつきあう

文野 美恵子

中内 佐登美

市川 隆子

岡村 香代子

島岡 紀美

黒岩 やよえ

市川 浩子

北村 さちこ

【各支所連絡先】

四万十支所(旧JA四万十本所)

0880-22-0003

梶原支所(旧JA津野山本所)

0889-65-0111

興津支所

0880-25-0002

東津野支所

0889-62-2211

大野見支所

0889-57-2321

葬祭会館 ルミエール四万十

0880-22-5900

(株)JAメモリアルこうち 津野山出張所

0889-40-1955

事故受付など 高西サービスセンター

0889-40-4141

◆◆おたよりから◆◆

とさのさとに初めて行ったときにアワビの大きなのがありびっくりしました。これからもスーパーにはない珍しいものを期待しています。
(四万十町・68歳・女性)

我が家でも土佐赤牛を飼育しており、餌やりや敷き草の交換など懐かしく思い出しました。口のあるものを世話するのは大変ですね。
(梶原町・81歳・女性)

短歌

どっこいしょ声の弾みで立ちあがる裏木戸出れば法師蟬の声

(津野町・村田三喜子)

俳句

何せうも半端な年よ昼寝せむ

(四万十町・藤原佳代子)